

座長集約

セッションX その他

上尾中央総合病院 佐々木 健

セッションXその他は5演題で行われた。内容は骨密度、超音波から震災対応、ネットワーク、放射線啓蒙活動と非常に幅広い為、それぞれの演題毎に個別にまとめる。

演題番号49 DXA装置の体厚モード変更におけるBMD値の変化

骨密度検査前に身長・体重を入力をする事で、装置が自動で体厚を決定し撮影条件を選択しているが、実体厚との誤差により検査結果に違いがあるかの検討であった。結果は総検査の7.15%で自動で選択した体厚と実体厚に違いが生じた。したがって、モード切換え付近の体厚では測定後表示される体厚との比較をする必要があるとの事であった。BMD値は年齢も加味して決定されるので、今後は年齢、BMIなども考慮した検証に期待したい。

演題番号50 骨密度測定データ移行に伴う換算係数の評価

装置の更新によるBMD値の変化を換算式から求めた係数にて補正が可能かの検討であった。腰椎正面、大腿骨近位部ともに近い値は求められたが多少の誤差が生じた。日本人用の換算式の開発も望まれるが、検出面積や体位、解剖、石灰化、撮影条件等を含め誤差の原因を検証する事も大切であり、興味深い。更なる検証を重ね報告して頂きたい。

演題番号51 超音波パルスの伝搬、散乱、透過のしくみについて

体外衝撃波結石破碎装置の超音波パルスが生体内でどのように伝搬、散乱、透過をするのかを有限時間差分領域法 (FD-TD法) を用いて数値シ

ミュレーション解析を行い、可視化を行った学生演題であった。臨床への応用と高いエネルギーでの検証を期待したい。

演題番号52 アンケート調査による震災時対応の把握 (埼玉県放射線技師会第二地区)

2011年3月11日に発生した東日本大震災を起因とする計画停電は記憶に新しい。埼玉診療放射線技師会第二地区内施設での対応と問題点をアンケート調査したところ、震災時のマニュアルの有無や、非常時の患者接遇、またこれまで経験のなかった計画停電への対応など様々なことに追われたと考えられる。災害時に関わらず日頃から他職種と連携し、対策を考えておく事が「いざ」という時に有効であると思われた。

演題番号53 フィルムレス運用における一般撮影検像ワークフローの構築

電子カルテ及びPACSの更新に伴い、完全フィルムレス運用へと移行した。一般撮影部門においてもワークフローの見直しが必要となった。そこで、変更に伴う検像システムの問題点を考慮し、適確かつ迅速な検像業務が行える新しいワークフローを構築したという内容であった。受付から画像送信 (フィルム搬送) まで3分の時間短縮が図れたとの事であったが、混雑時や検像担当者からの再撮影依頼ではこの限りではなく、今後はこれらの問題を含め、さらなる効率化を図って頂きたい。

演題番号54 放射線管理士としての院内外啓発活動について

東日本大震災による福島第1原子力発電所の災害においては、放射線という見えない恐怖をマス

コミが大々的に報道していた。診療放射線技師として「放射線の正しい知識」として院内外にわたり、院内啓発活動を行っていく事の大切さを報告して頂いた。診療放射線技師は放射線の名のつく国家資格であるため、先頭に立って不安や疑問を持っている方々と対話する事が重要であると思う。演者の今後の活躍を期待する。